

国土交通省近畿地方整備局・淀川水系流域委員会に意見書を提出

会長 高田直俊

<提出文書全文>

・銀橋狭窄部の開削

多田地区の浸水を防ぐために銀橋狭窄部を除去すれば、下流域の治水に悪影響を与えると説明されています。この説明では、多田地区に遊水地機能があるような含みがありますが、多田地区はほぼ全域が市街地化しており、遊水地的に水を溢れさせるわけにはいきません。多田地区の遊水地機能は現在はもちろん、今後もあり得ず、また銀橋上流の猪名川の川幅も下流とほぼ同じですから河道貯留の機能もありません。したがって、銀橋の狭窄部は、単に疎通能力を低くして上流水位を上げる負の役割だけであり、下流に対する治水上の貢献は全くないので、銀橋狭窄部を開削すべきです。銀橋直上流部は兵庫県によって流路が拡幅されて疎通能力が引き上げられましたが、役に立っていません。

・一庫ダムの150トン放流

平成12年発行の一庫ダムのパンフレットには、洪水時一庫ダムの放流量を150トン/秒に低下せざるを得ず、計画降雨に対しては当初の650トン/秒よりも放流量が増すと恐ろしい話が書かれています。ダム完成後20年を経ても河川改修の遅れから、わずか150トン/秒の放流量しか確保できないのは怠慢としかいえません。川西市小戸付近の疎通能力拡大が遅れていることが主な原因ですが、また、ひ弱な堤防のためとも説明を受けました。現在小戸付近改修工事が進んでいますが、これの完成と一庫ダムの放流量の再変更、銀橋狭窄部開削との関係はどうなりますか。

・ひ弱な堤防の強化

猪名川河川事務所の説明によれば、猪名川の堤防は定規断面としては一応出来ているが、質的な内容はひ弱である、とのこと。同様の説明は木津川堤防についても川上ダムの説明時に聞きました。延長の長い堤防のことですから、弱点を見いだして強化することはかなり難しいことを考慮しても、「形は整えたが、中身は信用できない」と事業責任者が発言し、したがって現計画洪水流は流せない、ダムが必要である、というシナリオは正しい発言でしょうか。そして造った一庫ダムは謳い文句通りの治水機能を発揮していません。堤防の強化、特に越流しても破堤しない堤防への強化は総合治水、超過洪水対策の観点から最重要です。余野川ダム建設よりも優先すべき課題ではないでしょうか。なお、余野川ダムの利水の必要性は事実上消滅しています。